

2024年度 学校自己評価シート（慶應義塾志木高等学校）

目指す学校像	独立自尊の気風を養い、自主性のある、品格の高い、明るい塾生を育成する教育を行う。
重点目標	1 基礎的な学習の習得 2 個性と能力をのばす教育 3 学校行事とクラブ活動の充実 4 開かれた学校づくりの推進

達成度	A	ほぼ達成（9割以上）
	B	概ね達成（8割以上）
	C	要化の進し（7割以上）
	D	不十分（6割未満）

※学校関係者評価実施日は、最終回の学校評価委員会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者 学校関係者	6名
事務局（教職員）	1名

学 校 自 己 評 価				
2024年度 目 標				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標
1	将来、社会の各分野で先導者として活動するため、また慶應義塾大学に進学する前段階として基礎的な学習を習得させ、学習・研究の必要性を理解させるとともに、自主的に学習するための指導の充実	基礎的な学習の習得	・各教科部会におけるきめ細かい指導方針の確立と実践 ・必修科目、選択科目、多様な語科目を充実にせ、幅広い学問的好奇心等の要求に対応	・教科責任者会議において情報共有化と学習指導方針のすり合わせを図る。 ・生徒・教員ともにアンケートを実施し、少人数適正規模教育の有効性を確認できた。
【基礎的な学習の習得】				
【必修科目】				
・一人一人に教員の目が届くと同時に、生徒同士の多様な「文脈」の場を確保するため、2年生のクラス編成を従来の6クラスから8クラスに変更し、1クラスあたりの人数を31→32名とした。				
・生徒・教員ともにアンケートを実施し、少人数適正規模教育の有効性を確認できた。				
・2年の古典探究（3クラス）では、教室での学びとともに、伝統文化の体験を重視した。7月には、伝統芸術「詩舞」の御殿・見城斎藤月民を招請。見城氏には、授業で学んだ七々にまつわる和歌や漢詩を題材に、舞を演劇してもらった。さらに生徒自身も詩舞の所作を体験した。12月には、お茶会や香りが登場する古典作品を学習した後、本格的な伝統香料を用いて、生徒一人一人にお香（匂い袋）を調合してもらった。このような活動を通して、五感を使って学びを深めることができた。				
・3年の文学国語（3クラス）では、日本近現代文学を彩る作家・作品を、ジャンル一論的視点を導入しならぬ鑑賞する試みを継続的に行った。特に宮沢賢治『銀河鉄道之夜』をテキスト、竹村千『家について』をサブテキストに用いて、アクリトを深むということが自分自身を相対化して考察することなどによって他者を促した。また3年生学習と連動させながら、賢治と太宰治の文学を、大正昭和期の文化事象やアジア太平洋戦争などと接続して考察した。				
・1年の歴史総合（全クラス）では、各地の博物館・美術館で開催されている人文系の展覧会を随時紹介し、レポート課題を通じて、国内外の多様な文化前について、主体的に考える機会を提供した。				
・2年の公共（8クラス）では、政治・経済の基本知識の習得にとどまらず、福澤諭吉が重要とした「speech」の力を伝えるため、チーム対抗のディベートを中心に据えた授業を行なった。論戦テーマには生徒に関心を持ってもらうため、現代的なトピックを選び込むよう努めた（例：国会議員の半分を女性性にすべきか？ 未来日本の成長の鍵は政府の財政政策か、より自由な市場競争か？ など）。加えて、ディベートの準備や振り返りにあたり、生徒には教員が知っているとトリック技法も適宜アドバイスした。その結果、生徒のディベートは次第に向上し、3学期には多くの生徒が堂々と自分の主張を述べた（時間1-2分の中で論議的にスピーチできるようになったと思われる）。				
・3年生の日本史探究（6クラス）では、通常授業に加えて、Google Classroomを活用した課題・動画によって基礎知識の定着を図った。加えて、恒例の古地図観察課題により、身近な地域に根ざした歴史についても主体的に考える機会を提供し、特設コーナーの設置など本校固有の能力を伸ばす、各種文献や関係資料の活用を促した。なお、古地図観察課題の授業の一部については、校内誌『櫻』第33号に掲載した。				
・2012年度より、3年生生物の授業（単元：進化と系統）の一環として、校内自然観察会のインストラクターを希望した生徒への集中課題と観察会におけるインストラクションを実施してきた。2020年度～2022年度は新型コロナウイルス感染症拡大を受け、自然観察会自体を開催中止していたが、2023年度より再開した。来場者は春（5/25）124名、秋（9/21）131名である。				
・実践英語では、3年間通じて、自分の考えを聞き手に分かりやすく、説得力を持って伝えることを目的に、アウトプットを重視した授業を行なっている。				
・1年生の授業：年間を通じてプレゼンテーションを実施した。また、その基礎力を養うため、シンドラインで自然な発音やリズムを身につけ、多読活動を通じてインプットを強化した。プレゼンテーションを準備する中で、主題を明確に伝える論理的な構成、ジェスチャーや姿勢、アイコンタクトの重要性を重点的に学んだ。また、発音やリズムの向上に際して、限られた時間内で論理的に主張を伝えるタリスマンやジェスチャーも習得した。さらに、内容が以降のエッセイライティングに向け、アウトプットの読解性を高めるための10分スピーキング活動も導入した。全体として、スピーキングの準備や発表の場面でスピーキングスキルが向上したと答えた。				
・2年生の授業：1年生のプレゼンテーションで学んだ構成を活かして、エッセイライティングに取り組んだ。突然らしい論理展開と内容に相応しい表現を使えるように練習を重ねた。まずはアウトプットの量を増大させることに主眼を置いていた。3年生の生徒がテーマを指定したところ、4月（10月～12月）から1月（10月～12月）までの間で30分間に亘るエッセイの平均語数が21箇所から31箇所になった（94語増加 [1.43倍]）。ライティングにおける読解に大きな向上が認められ、スピーキングの準備や発表の場面でスピーキングスキルが向上したと答えた。				
・3年生の授業：2年次から継続しているエッセイライティングでは、80.4%の生徒が力の向上を実感しており、多くの生徒が読解の向上に際して読解教科書で意見をまとめる要素を模倣することができた。スピーキングについては、短時間で考えをまとめ分けて話すという活動を通して行ない、通年度から読解時間を大幅に増やした。40%の生徒が話す力の向上を感じている一方で、高等学校段階で学習する語彙や語法を活用することに苦労した生徒も数人いた（注：文中の数字は、年度末に3クラスを対象に実施した匿名アンケートの結果に基づく）。				

学校関係者評価	
実施日 2025年5月10日	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
二年生の8クラス編成はよりきめ細やかな指導を促して、とてもよかったと思いました。	
少人数制で授業が行われ、教諭と生徒の距離も近く、息子も学校が休みの夏休み等長期休暇期間中で数学や理科の先生とメールや電話に接して、授業内容以上に教員と関わる分野の指導や考え方、大学で学ぶ内容なども教えていただくなど、学習の対しての関心や意欲に対してとても丁寧に接していただけて手厚いご指導に心から感謝しております。	
大学受験がないという利点を生かし、幅広く多様な科目を様々な観点から学習することができているようで、たいへんありがたくなっています。	
少人数制の良さもあり、教員と生徒のかかわりが深いため、気軽に先生に勉強についていてもメールでも直接でも質問できる環境が素晴らしいと思います。来るべき12月に鑑み、PCを用いたプレゼンなど、もう少しPCを用いる機会を増やそうというのでは、感じました。他校との比較においても、少々志木校はPCに触れる機会が多いと感じます。	
塾高に比べ少人数であるということが志木高の特色であり、良い点だと思います。毎年のクラス替え、特に2年生は8クラスとなるなど、学年全員の顔がわかるというのは将来の強みになります。この特色を生かすべく、磨きを継続に行っていきたいと思っています。	
普段生活では経験できないようなオリジナルのお書作りはとても良い経験になりました。	
たまにはありますが、志木高を自選するようなニュースで、SNSなどで発信している生徒がいるように見受けられます。「独立自尊」の精神からもまよいことだとは思えませんが、ぜひ福澤先生のいう「独立自尊」の精神をより根付かせていただきたいと思っています。	
ディベートはとても良い機会を持てたと思う。自分の意見を他人に正確に伝えるためにすることや、他人の意見やちゃんを受け入れる経験はとてもこの時期にやっておきたかったと思います。	
息子は、公共の授業が好きで中学までの授業にはなかったチーム対抗のディベートや論議のテーマを考えるのが得意になり、論理的に相手に分かりやすく話すコミュニケーション能力が明らかに向上したように思います。	
エッセイライティング・スピーキングの学びを感じることが家庭内でも感じる事が多く、社会でも強みになる貴重な知識を得られたと感じております。今後も継続していきたい、私どものように子供の成長を時間と志木高の素晴らしい保護者が経験していただきたいと強く思います。	
2年生の英語の授業で、英語でプレゼンテーション資料をスライドで流しながら論理的に分かりやすく説明したり、ディベートする力がついたように感じます。帰国子女の多言語クラスで英語のレベルが高いクラスでしたが、とても英語力がついたように感じられます。	
1年生の授業：プレゼンテーションのように、事前に準備をして話すだけではなく、即興的なやり取りの機会も増やしたい。そのためにホストやゲストスピーカー一員としての準備を、より強めていくことが望ましい。	
2年生の授業：これまでライティング編重の傾向が見られたので、スピーキング活動も導入したが、より幅広く、適切なフィードバックを与えることが課題である。	
3年生の授業：それぞれの生徒のパフォーマンスに対し、個別最適化されたフィードバックを提供するシステムの構築。高校段階で学習する文法項目や語彙を知識レベルで留めず、アウトプットで活かせるようにするための機会提供と教材としてのコンテンツデザイン。	

学 校 自 己 評 価					
2024年度 目 標			2024年度 評 価（2025年3月31日現在）		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況
					大量のインプットがアウトプットの流動さにつながるという考えから、オンライン多読システムに加え、図書館と特別教室に適宜洋書を購入・配架し、多読を3年間継続できる環境を用意し、生徒に卒業内で多読に取り組むよう促している。その結果2024年4月から2025年1月までの本校図書館の全貸出数における洋書の占める割合が約8%となり、昨年度に比べて大きく減少してしまった。 ・『種』第53号を発行して、部活や生徒会などの活動報告および授業などで作成した作品やレポートの発表の場を生徒に提供し、教員はその指導を行った。 ・『<u>学問・研究の必要性</u>』 ・ことばと文学（ろ）では、エンターテイメントを文学史・哲学史と接続することで総合的に把握した。 ・ことばと文学（い）では、言語学の視点を取り入れながら、年間を通して「ことば」「コミュニケーション」について学びを深めた。レポート課題では、授業で扱ったテーマの中から興味のあるものに対して独自に調査・考察を行い、日常にあふれることばから、様々な気づきを得た。 ・社会では、「日本文化を社会学する一糸の糸を中心として」と題し、「まずは日本の伝統文化に実際に触れてみよう!」をキー・コンセプトに、今年度より供用が開始された光沢郷和室「清心庵」での茶の湯の実習を中心に授業を展開した。校内の豊かな自然環境を活かし、茶館の花を床の間に飾る体験や、チャノキを用いた茶摘みと煎茶体験も試みた。留学生（7月に台湾、12月に豪州）を迎えた際の茶の湯体験や、茶鑑を巡る「清心庵」の茶室鑑賞（10月）は、履修者諸君にとって格好の成果披露・成長の機会となった。 ・英語AではAlice' s Adventures in Wonderland を英語で読み、多くの日本語翻訳を比較しながら考察を加えた。19世紀英国の文化に関する資料を用いて、作品の背景に関する知識を補いながら、物語の世界を深く味わうことを目指した。最後には生徒たちはグループで映像作品の作成に取り組み、1学期で学んだことに独自の解釈を加えながら、創造的に表現することができた。 ・英語Bでは特に次の2つ→英語で話すことへの抵抗感を無くすること、正確に書く力を向上させることを目指した。毎時間必ずあるテーマに基づき話す時間を設け、その直後に必要な言語形式や語彙を明示的にフィードバック、再度回テーマについて改訂した英語や内容で話す。そして最後にそれを書くというサイクルを重視した。新規の語彙や語法は単語、その語源と継続的な反復確認を行うことで断片的な生徒がアウトプットで使えるようになることを実感した。実際に年度末の匿名アンケートでは、履修生徒30名の95.8%が英語を正確に書けるようになった。85.8%の生徒が英語で話す力が伸ばせたという前向きな自己評価をしており、年度当初の目標をみる程度は達成することができたと思える。 ・英語Cでは、金晃堂から出版されている"Different Histories"という教科書と映画を使用しながらアメリカ文化と歴史の理解を深めた。 ・2009年度より高大連携教育の一環として行なわれている、本塾大理工学部で数学の授業（学部1年生対象）を聴講できる制度が今年度も実施され、大学で学ぶ機会を得ることができた。 ・2014年度より高大連携教育の一環として行なわれている、本塾大文学部日吉キャンパス設置科目（一部）の履修制度（第3学年次に履修後、文学部進学の場合は卒業単位に含まれる）について、今年度は、春学期・秋学期で第3学年計5名が履修し、熱心に受講した。 ・『総合的な学習の時間』 ・24言語の「ことばと文化」を通して、各国の文化、伝統や言語を学ぶ機会が多くあった。 ・『<u>語学課外講座</u>』 ・単位とは関係のない語学課外講座においても履修者数は、7限116名、8限10名で約20%の生徒が学びを深めた。 ・『<u>主体的な学習環境の充実</u>』 ・本校主催による学部説明会は三田キャンパスで、本塾各学部（医・理・総・環・畜・薬）は見学会を各キャンパスにて対面で実施した。 ・『志木高案内』2024年度版を新規に作成し、生徒の学校生活における利便性の向上に努めた。 ・『災害対応に関する教職員マニュアル』2024年度版を整備し、緊急対応の体制を充実させた。 ・『研究紀要』第55輯、『ことばと文化』第29号を発行し、教育・研究の発表の場とした。

学校関係者評価
実施日 2025年5月10日
学校関係者からの意見・要望・評価等
教科の先生にいつでも質問できる環境と高大連携で好きな数学の授業を大学にも理工学部の授業を聴講できる環境は素晴らしいと思います。
人数制で授業が行われ、教師と生徒の距離も近く、息子も学校が休みの夏休み等長期休暇期間中でも数学や理科の先生とメールや実際に登校して、授業内容以上に教科で関心のある分野の深掘りや考え方、大学で学ぶ内容なども教えていただくなど、学問の対しての関心や意欲に対してとても丁寧に接していただいて手厚いご指導に心から感謝しております。
・も講義の特徴をより効果的にアピールし、総合的な探究の時間では様々な未知の言語・文化との出会いを、課外講座ではより専門的なことからいふれる機会を提供する。
・卒業後の進路について考える機会を増やす。

学 校 自 己 評 価				
2024年度 目 標		2024年度 評 価（2025年3月31日現在）		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標
2	現在の生徒数による教育の充所を生かし、教員と生徒との人間的接触につとめながら個性と能力をのばす特色ある教育を行う。	・教員と生徒との人間的接触につとめながら個性と能力をのばす特色ある教育の実践	・精神面においては、クラス担任のみならず全教職員、医師、スクールカウンセラーによるきめ細かい指導の実践	・教員会議において生徒の現状の情報共有化を図る ・協力体制を構築する
		【物色ある教育】	・フィンランドのLuostarivuoren Lysén Lukioとの短期留学とオーストラリアのToowoomba Grammar Schoolとの3週間の交換留学が再開された。 ・台湾のWego Private Bilingual Senior High Schoolとの国際交流は短期留学という形で再開され、夏から秋にかけて、オンラインで交流し収穫祭や12月の第13回志木演説会で成果報告を行なった。 ・2011年度より理科教育の一環として長野県諏訪市～新潟県糸魚川市周辺において、水質調査やジオパークの見学等、生物・化学・地学・物理の学習を行なっている。今年度より、実習内容を新型コロナウイルス感染症拡大以前の水準に戻し、すべての研修課程を実施することができた。また、新たに大力・原子力発電所見学を実施し、日本や世界のエネルギー問題を考える機会を与えた。 【ユトレクスケア】 ・例年、教職員・医師（校医、精神科医）・カウンセラーがチームとなって、様々な問題を抱えている生徒に対応している。 ・新型コロナウイルス感染症拡大を機に、オンラインでの面談方法を取り入れ、生徒・保護者の抱える複雑な状況に対応できるよう整備した。	・SGLI (Student Global Leadership Institute) の再開に向けて検討を行なう。 ・SGLIを通じて、英語が得意な生徒の意欲・能力をさらに高める。 ・本校生徒にみられる精神的成長（その過程で生じる不安感や悩みなども含む）の特徴を調査・分析し、今後の教育活動に活かす。
3	生徒を多様な学校行事とクラブ活動等に参加させることにより、良好な人間関係や健康意識の育成し、積極的に心身の健康の増進を図り、リーダーシップを培う教育を行う。	・生徒が自主的に学校行事、各人に適したスポーツ、アート、リサーチ、各種のプロジェクト等に参加するための指導の実践	・学級担任会、生活委員会、体育部会・文化部会 ・部活動、生徒会活動、体育系・文化系クラブ活動 ・活動においての適正な指導方針の確立と実践 ・学校行事、体育系・文化系クラブ活動の選択肢の実現	【多様な学校行事】 ・例年5月に実施している1年生研修旅行は、5年ぶりに2泊3日の日程に戻して実施し（コロナ禍で20・21年度は実施せず、22年度は日帰り、23年度は泊で実施）、各教科の興味・関心を喚起するとともに、生徒間の親睦を深める機会とした。初日は神奈川県内工業史博物館を見学後、横浜を中心とした差別自主研修を実施。2日目は三浦半島で城ヶ島・沖ノ島・小網代の森等を、現地ガイドの協力を得ながらクラス毎に見学。3日目は鎌倉を中心とした差別自主研修で、最後に全館、鎌倉歴史館を見学した。全日程を通じて、ワークシートやレポートに取り組んだ。 ・生徒向けにBLS講習会を実施し、日常生活の中での健康危機に即座に対応できるように努めた。 ・例年、収穫祭では生徒の自主的な活動をサポートしながら、自己表現と団結の時間と場所を共有するよう努めている。今年度の収穫祭でも、生徒主体の伝統を引き継ぎながら、時代の変化に即した新しい振興を取り入れた。特に、志木高爾段70周年を記念して完成した光彩館を活用した企画が大きな注目を集めた。新しいホールでは、音楽部やワグネルのコンサートが開催され、音楽に導いた鑑賞で鑑賞者を披露することができた。また、本校卒業生で作家の金子玲介様をお招きした「対話トークイベント」は、当日はほぼ満席となるほどの盛況ぶりであった。さらに、感染症対策と安全管理を継続しながらも、昨年度よりルールを柔軟に運用し、生徒一人ひとりの個性や創意工夫が最大限発揮できるよう努めた。二日間でも665人の来場者を迎え、一件の事故やトラブルもなく、無事に終了した。 ・10月、運動会を実行委員の生徒が主体となって実施した。 ・7月と11月の定期試験の終了後、クラスマッチを学年別に行ない、日頃の有効な活用と内容の向上が図られた。 ・7月、慶應義塾三田キャンパス西校舎ホールで、弁護士 齋藤雅弘氏を招いて、第136回志木演説会を開催した。「大川小学校津波被害から学ぶもの」という課題で、津波被災とその後の新証の経緯を紹介し、日本社会にとっての意義や教訓、また私たちはそれを受けてどう社会に活かしていくべきなのかをお話ししていただいた。 ・9月、3泊4日の3年生見学旅行（東北地方）が実施できた。中郷幸・立石幸、斎藤茂吉記念館や宮沢賢治関連の施設や場所、三陸町の震災遺構や大川小学校を見学し、大川小ではご遺族のお話に耳を傾けた。三三陸町自然環境活用センターでは志津川川の生態系への地域環境観による影響や持続可能な事業の実践について講義を受けた。理科・社会・国際等の教科学習と連動した行程や仙台周辺での自由行動など生徒たちは日中と異なる時間を通ることで生きた学びの場を堪能できた。 ・12月、慶應義塾三田キャンパス西校舎ホールで、慶應義塾長である伊藤公平氏を招いて、第137回志木演説会を開催した。「量子コンピュータ」という課題で、科学者たちによる量子力学的研究成果が、コンピュータの発展の方向性を大きく変えようとしている様子をお話をしていた。

学校関係者評価	
実施日：2025年5月10日	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
台湾のWegoの生徒さんをお預かりしました。最初は女子生徒とのことで、どのように対応しようかと迷っていましたが、子供達の自然なコミュニケーションにより家庭でも沢山の話すことができ相互理解ができました。その結果、子供達は隔を越えた新しい友情が芽生えグローバルな視点も身に付て多くの経験をすることができました。保護者同士もLINEと翻訳ソフトを活用し、情報交換ができるようになり子供を通して多くの学びになりました。先日もお預かりした生徒さんご家族が日本に観光に来られ、都内で家族同士で交流することができました。本当に素晴らしいプログラムです。今後とも続けていって欲しいと願っております。	
1年生研修旅行を入学からまだ日の浅い月初旬に実施したことでクラスメイトとの親睦が深められ、その後の学校生活を円滑に進める良い機会となったと感じています。	
副委員長として望んだ収穫祭でしたが、前日に体調を崩してしまい皆さんにご心配お掛けしました。しかし、友人や先生、事務の皆さまのサポートでやりることができました。感謝です。収穫祭を通して様々な方達との連携や、計画、トラブルなどを経験し大きな成長をしたと感じています。学校の生徒が主体の考え方が学業以外でも人間としての成長を支えていただけたと感じています。今年度も志木高校へ収穫祭を期待しております。	
収穫祭はクラス発表はとても良いと思う。自分たちで企画画片付けでも協力しながらやり上げる経験はとても貴重だと思います。	
収穫祭当日、光彩館でワグネルと器楽部のコンサートを聴くことができました。光彩館があることで体育館を使わずにイベントができるようになり、体育館を使用する運動部との共有もこれまでよりスムーズになるように感じられました。今後も積極的に光彩館を利用してほしいと思います。	
運動会、収穫祭の生徒たちの笑顔の良さと内容の充実は、目を見張るものがあり、それぞれの実行委員の能力の高さを感じて、毎年とても感じています。生徒たちの自主性、個性が表れており、毎年息子は運動会の旗装行列の企画立案演者をしています。クラスが一致団結してとても活き活きしていて心から生徒たちの楽しむ姿を見ている保護者側も感じられて本当に素晴らしい活動に通じていて先生方のご指導あつてのことであると思います。	
体育祭は最高でした。	
指のため予行が行えなかった中でも生徒主体でスムーズに進行しており、実行委員の統率力の高さを感じました。	
クラスマッチはもっと種目があるよと思います。	
志木演説会のように、社会人の話を聞くのはとても刺激になると思います。大学受験がないのでから、このような刺激的な機会をより増やしていただけたらと思います。	

学 校 自 己 評 価					2024年度 評 価（2025年3月31日現在）	
2024年度 目 標					次年度への課題と改善策	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	※03※
					【生徒会活動】 ・生徒会活動の一環として、正門前や校内で「緑の羽根募金」を実施した。 【クラブ活動】 ・水泳部が関東高等学校水泳競技大会に出場した。 ・スキー部が関東高等学校スキー大会・全国高等学校スキー大会・国民スポーツ大会冬季大会スキー競技会に出場した。 ・端艇部が関東大会3位（M4X：男子舵手付きカドルプル）、インターハイ男子2位（M4X）、黒潮人戦2位（M4X）、3位（M2X：男子ダブルスカフ）、関東選抜大会5位（M4X）の戦果を収めた。	・各クラブ活動の様子をウェブサイトなどに掲載し、情報を充実させる。
4	ホームページ等で情報を有効に発信し、学校行事、学校施設等を開放するとともに、本校生徒が小学校、中学校、養老施設等を訪問し、交流を図る。	家庭、地域社会に対する積極的な情報の発信、オープンキャンパスの実施、生徒の積極的な地域活動への参加	・各委員会の連携と内容の充実 ・教員会議において活動状況の情報共有化と協力体制を図る。	・教員会議において活動状況の情報共有化と協力体制を図る。	【広報活動】 ・『学校案内2025』を刊行した。 ・公式ウェブサイトおよびx（旧Twitter）のアカウントを引き続き活用し、情報の提供に努めた。 ・本校主催の学校説明会は、外部イベント予約サイトを利用した事前申し込み制で、2023年度以降、体育館の収容人数1,000人を予約上限として、11月に対面で開催している。 ・入試については、外部インターネット出願サイト（miraicompass）を今年度も継続して利用した。 【授業に絡めた地域理解】 ・各種小論文コンクール等への参加や出品を、積極的に行なった。 【クラブ活動を通じた地域交流】 ・ワグネル・ソサイエティー男声合唱団は5月、社会福祉法人ルストホ志木において、入所者、ご家族、職員の皆様のために演奏した。 ・ワグネル・ソサイエティー男声合唱団は、2025年3月20日（木・祝）「光彩館」において第17回定期演奏会を開催した。 ・器楽部が第26回定期演奏会（3月29日、30日）を開催した。従来会場としていた志木市民会館が建て替え工事のため光彩館を会場としたが、比較するとだいぶ手狭なため、入館者にはチケット予約サービスを通じて事前予約していただく方式をとった。4回の公演で1200名超の観客に部員たちの演奏をお楽しみいただいた。 ・器楽部が地域のお祭りなどのイベントで演奏する機会を持った。 【学校行事を通じた地域交流】 【学校施設を利用した地域交流】 ・近隣（志木市、朝霞市、新証市）在住の方々を対象とした校内自然観察会を5月と9月の2度開催し、5月は124名、9月は131名の方にご参加いただいた。 ・新型コロナウイルス感染症の影響で開催が見送られていた、志木小学校1年生のどんぐり拾いイベントが10/29収穫祭の代役を利用し本校の敷地を一周する形で敷地を開放した。 ・年に数回近隣のラグビースタールにラグビー場を使用してもらっている。 【地域との交流】 ・志木市立の中学在校生に対する勉強支援事業「志木市ベシックスポート事業」に、本校から多くの生徒が有償ボランティアとして参加した。今年度から始まった志木市の事業で、夏休み期間と秋の2回実施された。受講した中学生からも好評をいただいた。 【学校いじめ防止基本方針に基づく取組】 ・いじめ防止基本方針に基づく調査を実施し、教員会議において複数回議論を行なった。また、今年度も学校自己評価と併せて校内掲示にて公開した。 ・2023年度より「いじめアンケート」の実施回数を増やし、回答内容に応じて、具体的な対策を講じた。	・公式ウェブサイトにおいて、クラブ活動の戦績紹介・活動報告等をより積極的に行なえるよう、仕組みづくりを検討する。 ・各種コンクール・コンテストなどへの個人・グループでの応募を積極的に奨励していく。 ・OBや一般市民向けの本校教員による公開講座実施などの可能性の検討が望まれる。 B ・本校の恵まれた自然環境を生かして地域にオープンにしていける工夫を学校全体として議論していきたい。本校が地域の文化の拠点となるような方向で設備を整理していくことを考えるべきである。 ・学校施設の地域社会への開放について、今後も検討を行う。

学校関係者評価
実施日：2025年6月10日
学校関係者からの意見・要望・評価等
それぞれのクラブ活動でホームページを作るなどして活動を外部の方にも関心を持っていただけるいいツールであると思います。 クラブ活動は活発であると感じます。男子校ならではの異性の目を気にせず部活動に没頭できる環境が整っていると思います。
高校のホームページは、担当数に上る人が、かなりの頻度で見えており、学校の顔とも言えます。部活動の部分なども含めて、常に最新の情報に更新していただくようお願いいたします。 学校案内はとても分かりやすく、とてもよかったですと思います。
志木高の特長である自然環境を活かせる機会ですので、今後も継続して行っていただきたいと思います。
これだけの敷地があり駅から近い高校は少ないため、ラグビーに限らず施設の開放を検討してほしいと思います。
夏休みの勉強支援事業は、慶応志木生にとっても中学生にとっても勉強以上に学ぶことができるいい機会であると思います。